

# 商 業

教科別研究主題 生徒が主体的・意欲的に取り組む課題研究の在り方

## 研究概要及び索引語

研究協力員の勤務校の生徒を対象に、「課題研究」の学習指導を進めるにあたっての意識・実態調査を行った。その結果を基に、生徒が実体験を通して、課題解決の過程をたどりながら主体的・意欲的に学習活動を進め、学習の仕方を身につけることができる学習指導の在り方を究明し、各学校での学習指導の改善・充実に役立てることをねらいとした。

索引語：商業，主体的活動，意識・実態調査，課題研究，調査・実験・研究，秘書，手話

## 目 次

はじめに	117
1 研究のねらい	117
2 研究主題に関する基本的な考え方	117
3 「課題研究」の学習指導に関する意識・実態調査	119
(1) 調査対象	119
(2) 実施時期	119
(3) 調査項目，調査結果及び分析	119
4 授業研究	122
【授業研究1】 課題研究における「調査・実験・研究」授業の実践	122
【授業研究2】 課題研究における「流通経済分野 秘書経営領域」の指導	127
おわりに	132



## はじめに

教育課程審議会答申においては、教育課程の基準の改善のねらいの一つに「自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成」が示されており、「生涯にわたる学習の基礎を培う観点に立って、自ら学ぶ目標を定め、何をどのように学ぶかという主体的な学習の仕方を身につけさせるように配慮する必要がある。その際、自ら学ぶ意欲を育てることが特に大切であり、幼児児童生徒に活動や学習への適切な動機を与え、学ぶことの楽しさや成就感を体得させるように配慮しなければならない」としている。

商業においてもこのねらいを踏まえ、サービス経済化、情報化、国際化の進展や経済社会の種々の変化に将来生徒が柔軟かつ適切に対応していくことができるよう、応用性のある知識や技術を確実に身に付け、それを活用することのできる能力を育成することが求められている。そのためにも、实际的・体験的な学習の充実を図ると共に、生徒が自ら主体的に問題を解決したり、自発的・創造的に学習する態度を身につけさせ、自己教育力の向上を図ることが大切である。

そこで、「課題研究」の学習における教師の役割は、生徒の学習した知識・技術の結果のみに着目することなく、実体験を通して課題の解決に取り組む学習方法や学習態度を身につけさせることが大切であると考えられる。

### 1 研究のねらい

生涯学習の基盤として将来とも学習を継続する芽を育て、生徒が自らテーマを設定し、実体験を通して学ぶことの楽しさや達成の喜びを体得し、生徒が主体的、意欲的に課題を解決するための学習の仕方を身につけることができる学習指導の在り方を究明する。

### 2 研究主題に対する基本的な考え方

サービス経済化、情報化、国際化など新たな変化に適切に対処するには、主体的に変化に対応する能力を持ち、個性的で多様な人材が求められる。この主体的に変化に対応する能力としては、困難に立ち向かう強い意志、問題解決に積極的に挑む知的探求心、主体的に目標を設定し必要な知識・情報を選択活用していく能力、他者を尊重しつつ良好な人間関係を築いていくことのできる資質などが重要視される。

#### (1) 主体性を育てる学習指導

今までの学習指導は、教師側の年間指導計画に基づく、いわゆる教師主導の一斉指導型の授業傾向が強かったように思われる。これからは、生徒自らがこれまでの知識・技術を基に考えたり、それを生かして新たな事象を判断したりするなど、新たな事態や課題に適切に対応していくことのできる自己教育力、すなわち、主体的に学び続ける意志、態度、能力の育成が大切であろう。このような能力の育成には、必要な知識・技術を着実に身に付けさせながら、思考力、判断力、表現力などを知育の基本に据え、生徒が自ら学ぶ目標を定め、何をどのように学ぶかという主体的な学習の仕方、態度を身につけさせたり、さらに、学習への適切な動機を与えたり、学ぶことの楽しさや成就感を体得させ、問題解決的あるいは問題探求的な学習方法を取り入れることが大切であると思われる。

(2) 生徒が主体的に課題解決に取り組むためには

主体性の本質は、「もっとわかりたい」「もっとできるようになりたい」「もっとみごとにやり遂げたい」等、よりよいもの、より高いものをめざす意欲、要するに、「もっと・・・したい」という意欲そのものであるといえる。

そこで、本当の自主性が育っていくための土台は、日常の学習の中で、よくわかることの体験を重ね、学習することの喜びや充実感を味わっていくことにある。ここから「もっとわかりたい」との意欲が生まれるからである。

課題研究においては、学習意欲を高めるような具体的な学習目標や学習方法を明確にすることにより、新しい視点や発想が生まれる。さらに、活動時間、経費の負担が過重にならないよう担当教師が支援することによって、生徒は自主的・自律的に活動し、これまで得た経験や学習など獲得した様々な資質や能力が発揮される。また、学習活動のいろいろな場面、体験的な活動や表現活動を通して、思考力、判断力、表現力が養われ、知識・技術を着実に身に付け、自ら考える力や創造性が育成されることと思われる。

(3) 学習への意欲を高めるには

学習への意欲を高めるには、生徒に学習への動機を与え、学ぶことの楽しさや達成の喜びを体得させることが大切である。本物教育あるいは体験的学習など学習の手段や方法が重視される。また、生徒の能力・適性あるいは興味・関心に配慮することも重要と思われる。

「課題研究」において、意欲を引き出し、良さを伸ばすためには、次のことに留意する。

- ア 追求するテーマが身近で、自分にとってかわりがあり、しかも地域社会や人々に役立つものであることを生徒に感じさせ、自分の学習スタイルで学べることを強調する。
- イ 戸惑う課題内容であっても、励まし、チャレンジする気持ちを起こさせる。
- ウ 生徒一人一人の相談にのって、生徒の関心・考え・アイデアを引き出すよう努める。

(4) 「課題研究」の授業実践のねらい

課題研究は、生徒の自発的・主体的な学習活動を中心に、教師の適切な助言・指導によって、次のような能力などの育成をねらいとしている。

- ア 生徒が主体的にテーマを設定して計画を立て、問題を解決する学習方法により、計画性・実践力及び問題解決能力を養う。
- イ 自主的、継続的に学習する姿勢と探求的、創造的な態度と能力を養う。
- ウ 商業科目で学習した知識・技術を関連付け統合化を図るとともに、学習の深化を図る。
- エ 課題解決により、成就感と自信をもたせ、自己表現を図る能力と態度を養うとともに、自己の進路希望等を高める。
- オ 課題研究の成果を整理し、正確にまとめ、発表する能力と態度を養う。
- カ 個別指導により教師と生徒及び生徒相互の接触を深め、協調性を養い、個性豊かな人間性を育てる。

以上のことを踏まえて、生徒が既習学習で得た知識・技術を基に、学習意欲を高めるような学習目標や学習過程を明確に捉え、将来の日常生活や職業生活において、何をどのように学ぶかという学習の仕方についての能力を身につけることが大切である。このために、問題解決的あるいは問題探求的な学習指導を重視する必要がある。特に中等教育の段階では、自己を生涯にわたって教育し続ける意志を形成することが求められていると考えられる。



### 3 「課題研究」の学習指導に関する意識・実態調査

第2学年のときには、「課題研究」の学習についてのオリエンテーションを実施するための参考資料として、さらに、第3学年のときには、生徒の学習の成果を把握することを目的として、2回にわたり意識・実態調査を行った。

(1) 調査対象：県立商業高等学校2校の生徒

第1回 第2学年生徒（479人）

第2回 第3学年生徒（第1回に調査した生徒の中から100人を無作為に抽出し追跡調査をした）

(2) 実施時期：第1回 平成6年12月7日 第2回 平成7年11月7日

(3) 調査項目、調査結果及び分析

ア 第1回（第2学年を対象に、課題研究を進めるに当たっての予備調査）

【表中の数値は、全て回答者数に対する各問の回答数の割合（％）である】

表1 商業高校を選択した動機について

あなたはなぜ商業高校を選んだのですか。			
① 専門的な知識を得るため	9.4	⑤ 父母に勧められた	3.7
② 就職に有利だから	29.6	⑥ 中学の先生に勧められた	5.2
③ 各種の資格を取得したい	20.3	⑦ 周囲の人に勧められた	2.1
④ 特技を活かしたい	6.9	⑧ その他	22.8

表2 卒業後の進路について

あなたは卒業後の進路については、どのように考えていますか。			
① 就職	58.3	③ 専門学校	21.5
② 進学（大学・短大）	14.8	④ その他	5.4

商業高校を志望した生徒の約70%は自分自身で志望先を決定しており、目的意識もしっかりしている。さらに、卒業後直ちに職業に従事したいと思っている生徒が約60%あり、基礎的・基本的な知識・技術を着実に習得させた上で、専門的な知識・技術を養い、経済社会の一員として寄与する能力と態度の育成に努める必要を感じる。また、進学希望についても36.3%の生徒が希望しており、職業高校としての進学指導対策が必要であろう。

表3 興味をもった商業科目について

いままで学んだ商業科目の中で、特に興味をもった科目は何ですか。（複数回答可）			
① 計算事務	14.8	⑤ 情報処理	34.2
② 商業経済	6.9	⑥ 文書処理	10.6
③ 簿記	38.2	⑦ その他	16.7
④ 工業簿記	16.7		

表4 特に力を入れて学習したい商業科目について

今後特に力を入れて学習したい商業科目は何ですか。（複数回答可）			
① 計算事務	9.0	⑤ 情報処理	28.2
② 簿記	55.7	⑥ 文書処理	7.9
③ 工業簿記	34.2	⑦ その他	20.8
④ 会計	13.8		

実技・実習を伴う簿記や工業簿記のような簿記会計分野と情報処理分野に興味を示している。これは各種検定試験により資格が取得できるため、将来の進路を考えた上で、専門的知識・技術の習得を図っているものと思われる。しかし、資格取得にだけとられることなく、もう少し、商業の幅広い知識を習得し、サービス経済化への対応という点からも流通経済やマーケティング等流通経済分野にも興味を示してほしい。

表5 「課題研究」の学習内容について

「課題研究」は学習内容を自由に選べますが、あなたは現在次のどの内容について学習したいと思いますか。			
① 調査・実験・研究	16.3	③ 産業現場等における実習	15.0
② 作品製作	14.0	④ 職業資格の取得	54.7

職業資格の取得に片寄っている。基礎・基本の学習を重視しながらもめざす資格取得に要求される学力の水準、研究すべき範囲等を十分に自覚させる必要がある。多種多様な生徒の学習要求に応えるため、指導教師には幅広い専門的な知識と指導力が必要とされる。

また、表3、表4からもわかるように、職業資格の取得の中で特に簿記会計の資格取得に興味を示す生徒が多いのは、その資格が大学等から高い評価を得ているためであろう。

イ 第2回（課題研究を継続学習してきた、第3学年を対象にした調査結果）

表6 テーマの設定について

テーマの設定（選択）はどのように決めましたか。（複数回答可）			
① 専門性を深めたい	10.0	⑤ マスコミから興味をもった	4.0
② 好きな教科との関係で	13.0	⑥ 資格を取りたいから	45.0
③ 進路を考えて	28.0	⑦ 将来に役立つから	49.0
④ 日常生活から興味をもった	32.0	⑧ その他	1.0

将来の進路等を考えてテーマを設定している生徒が多く、職業資格を取得することにより、現実的に物事を見つめている生徒の姿がうかがえる。しかし、日常生活の中から興味をもった生徒が32.0%いることも見逃せない。

表7 意欲的な学習計画について

「課題研究」を自発的・意欲的に計画を立てて実施できましたか。	
① できた	36.0
② ほぼできた	52.0
③ できなかった	12.0

表8 創意・工夫のある学習活動について

「課題研究」の学習活動について、創意・工夫をしましたか。	
① たくさんした	23.0
② 少しした	40.0
③ しなかった	37.0

計画性については、自分の興味ある分野・内容に取り組んでいたために、意欲的に活気あふれた授業が計画的に展開された。また、創意・工夫をしましたかという問いに対し、しなかったと応えた生徒が37%いたことに注目したい。これは、単に資格取得することだけを目指し、検定の対策等にもとらわれていたものと思われる。自分の進路についてよく考え、いま自分が必要とされている知識・技能、資格は何かなどについて、調査・研究することも必要と思われる。



表9 「課題研究」における学習活動を通しての感想

「課題研究」を学習して、満足感が得られましたか。			
① 自分のペースで学習ができ満足した	68.0	③ 期待外れであった	15.0
② ほかの学習と変わらない	16.0	④ その他	1.0

自分のペースで学習できた生徒が大半を占めている。これは、同一課題で一斉学習する科目とは異なり、課題研究の特徴である自らテーマを設定し、自分の能力や適性に応じて学習し、問題解決を図ったためであろう。更に、プロセスを重視した評価が生徒に余裕と意欲を与え、学習者本来の姿があらわれたものと考えられる。期待外れが15%いたことは、テーマ設定においてつまづいたためと思われ、今後の学習の進め方に課題が残った。

表10 人間関係の変化について

生徒同士(先生と)の関係はどのように変わりましたか。( )内は、先生との関係			
① 親しみが増した	33.0 (30.0)	③ 悪くなった	0.0 (3.0)
② 変わらない	67.0 (67.0)	④ その他	0.0 (0.0)

一斉授業による教師側からの一方的な授業ではなく、少人数での授業のため、教師と生徒のコミュニケーションが十分図られ、教師の個性も発揮されたことで、教師に対する親しみが増したものと思われる。更に、生徒同士の関係については、グループ研究において、各自の意見が反映され、お互いを認め合うことにより、自己の存在感をアピールすることにより個性を発揮し、お互いに尊重し合う心が生まれ親しみが増したものと思われる。

表11 学習の効果について

学習した効果についてどのように考えていますか。			
① 進路の決定に役立った	11.0	⑤ 自主的に問題解決を図るようになった	3.0
② 日常生活に役立っている	20.0	⑥ 物事に対して意欲的に取り組むようになった	11.0
③ これからの学習(生涯学習等)に生かしたい	36.0	⑦ その他	7.0
④ 地域(地場)産業に興味・関心をもった	12.0		

生徒が自ら課題を設定し、戸惑いながらも課題を解決したことにより、地域産業にも目を向けられ、また、日常生活に役立てたり、今後継続して学習したりしていくための基礎が養われたものと思われる。

#### (4) 意識・実態調査のまとめ

ア 簿記や工業簿記など簿記会計に関する分野、情報処理に関する分野のように、実技・実習の分野に興味を示している。これは、資格取得により学習の成果がはっきり表れる科目に集中しており、将来の進路をしっかりと考えている表れであろう。

イ 第2学年では、大学・専門学校への希望者が約36%おり、専門高校としても一層の進学指導に力を注ぐ必要を感じた。

ウ テーマの設定及び学習の過程が生徒のペースで設定できたため、学習意欲が深まったようである。

エ 課題研究の学習によって、生徒同士、教師との関係が深まり、今後の学習指導に役立つものと思われる。

## 4 授業研究

研究主題に基づき、課題研究の学習指導についての改善・充実に役立つため、商業高校2校において、二つの授業研究を行った。

### 【授業研究1】 課題研究における「調査・実験・研究」授業の実践

#### (1) 授業研究のねらい

「課題研究」は、生徒の自発的、主体的な学習活動を中心に、教師の適切な助言・指導によって、各教科・科目で学習した個々の知識や技術をさらに深化させる。

「調査・実験・研究」では、商業の学習において、現代の経済活動や経営活動について、積極的に学習を進めようとする意欲や、身近なところから問題を見つけ、改善・向上させるための課題解決に取り組む意欲や態度を養う。

生徒は、通学途中にあるベンツ工場駐車場の数百台のベンツを見るたびに「1台数百万円もするベンツがどこで生産され、どのような経路でユーザーに届くのか」、「日立工場での作業内容はどのようなものか」などについて興味をもった。

そこで、「メルセデス・ベンツ日本株式会社」の日立工場の経営活動における「ベンツの輸入と流通について」のテーマを設定したグループの学習活動を通して、生徒が实际的・体験的に情報を収集し、調査・分析を行う方法についての指導の在り方を探った。

#### (2) 主体的に活動できるようにするための指導の手だて

##### ア 研究テーマ設定の工夫

平成5年に広島県呉市で開催された「商業クラブ全国発表大会」に参加したときの模様をVTRで視聴させた。レベルの高い研究発表を見ることによって、調査の内容や方法を考えさせ、この学習が自発的・主体的な学習活動を中心に進むことを理解させる。また、「調査研究」では、生徒の身近なところから様々な課題を見いださせるために、各自書、新聞、雑誌、広告等、その他専門書を参考資料として閲覧させ、自分で興味・関心があり、継続して調査研究が可能で、かつ、解決の見通しをもったテーマが設定できるように配慮した。

##### イ 生徒は、研究してみたいことをテーマ相談票（資料1）に記入し、担当の教師と相談する。

「課題研究」の授業の進め方について詳細に説明を行った後、テーマ相談票に研究テーマの希望等を記入し提出する。

希望テーマ別に別れ、個人又はグループごとに担当教師とテーマ設定及び今後の研究の進め方について相談する。

##### ウ 主体的に問題解決を進めるための指導

導入段階で、調査に関する基礎学習として「マーケティング」のマーケティングリサーチについて学習する。ここでは調査対象の例をあげ、資料収集の仕方や質問事項の設定、質問の表現、集計等について学習し、アンケート用紙を作成する。

また、資料や取材の依頼をするため、電話のかけ方、手紙の書き方等についても学習する。

##### エ グループ編成について

グループで研究をする場合は、1グループ3人～6人で編成し、同じ興味をもった者同士が、好ましい人間関係のもとに1年間お互いに協力できるよう配慮する。



### (3) 授業の実践

#### ア 年間計画

	月	主な学習活動	指導上の留意点
一学期	4	・オリエンテーション	・課題研究の目的と研究の進め方について理解させる。 ・年間行事予定表をもとに無理のない計画を立てさせる。 ・テーマに沿った参考資料の準備や企業側へ取材の依頼をする。 ・研究のまとめ方を想定させながら分析と考察を行わせる。 ・聞き手が関心もてるような資料作りを工夫させる。 ・要点をまとめ報告・発表できるよう支援する。
	5	・テーマ相談票をもとに担当教師と相談	
	6	・研究テーマ設定、年間計画表作成	
	7	・調査内容の検討	
二学期	9	・取材、資料の分析と考察	
	10	・取材、資料の分析と考察	
	11	・報告書の作成	
	12	・報告書の作成 発表用の資料作成	
三学期	1	・発表用の資料作成	
	2	・発表	

#### イ 実施形態

(ア) 「課題研究」のねらいを達成するため、より多くの商業に関する基礎的な知識、技術を修得した後の第3学年で履修し、6クラス同時展開（金曜日の3・4時限）で実施する。

(イ) 四つの内容及びテーマ設定

テーマ相談票により担当教師と内容及びテーマについて相談する。

#### 資料1 「課題研究」テーマ相談票

「課題研究」テーマ相談票		年 組 番 氏名
内 容	(1) 調査・実験・研究 例 ①商品の流通に関する調査 ②販売促進に関する調査 ③地場産業に関する調査 ④その他	(2) 作品製作 例 ①パソコンのソフト開発 ②広告用パンフレット作成 ③コマーシャルビデオ製作 ④その他
	(3) 産業現場等における実習 例 ①デパートでの販売実習 ②企業経理実習 ③コンピュータ実習 ④その他	(4) 資格取得 例 ①情報処理検定 ⑤販売士検定 ②簿記検定 ⑥秘書検定 ③珠算検定 ⑦英語検定 ④ワープロ検定 ⑧その他
第一希望		第二希望
希望の理由		
-----		
教師用メモ		
-----		
平成 年 月 日 担当教諭		

(ウ) 《資料1》により希望調査を行い、その結果、四つの研究内容に分ける。

- |            |     |               |      |
|------------|-----|---------------|------|
| a 調査・実験・研究 | 40人 | c 産業現場等における実習 | 0    |
| b 作品製作     | 50人 | d 職業資格の取得     | 155人 |

(エ) 調査・実験・研究の40人をさらに、研究テーマ別のグループに分けた。

資料2 研究テーマ

(単位：人)

No	テ ー マ	人数	No	テ ー マ	人数
1	ペッツの輸入と流通について	3	7	洗剤の流通経路に関する調査	3
2	日立漁港の漁獲量調査	5	8	外食産業に関する調査	1
3	日立市のレジャー施設について	6	9	大手電器店と個人電器店との経営比較	4
4	洗剤に関する調査	5	10	パンに関する調査	3
5	ビールの販売促進について	5	11	消費者物価指数について	3
6	水の研究(輸入のミネラルウォーター)	2			

ウ 展 開 (ペッツの輸入と流通について)

月	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
一 学 期	4 ○ オリエンテーション ○ 希望調査を行い、四つの研究内容に分ける ○ テーマの設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・郷土(地場)産業を中心に調査研究をすることにより、郷土の地域経済について理解を深める。</li> <li>・解決の見通しもったテーマを設定させる。</li> <li>〈評価1〉テーマは年間計画に沿って適切か</li> <li>・アンケート作成のための資料を準備する。</li> <li>・実際にアンケート用紙を作成する。</li> <li>〈評価2〉アンケート用紙の質問事項、質問の順序、表現等は適切か</li> <li>・資料の請求や取材の依頼先を検討し、電話の応対や手紙の書き方を練習する。</li> <li>〈評価3〉話す要点をメモして電話がかけられたか</li> <li>・あらかじめ企業を訪問し、取材の依頼をしておく。</li> </ul>
	5 「課題研究」テーマ相談票に希望を記入し	
	6 担当教師と相談する	
	7 ○ 学習計画書の作成 ○ 基礎学習 調査の方法、資料収集、まとめ方等	
二 学 期	○ 資料収集 ○ 取材の準備 企業に取材の申込みを行うため、質問事項を検討する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業側に失礼のないよう事前指導を十分行う。</li> <li>〈評価4〉取材の結果を報告する</li> <li>・ロータス1.2.3の使い方を学習させる。</li> <li>〈評価5〉お互いに協力し合い進めているか</li> <li>・まとめの冊子を作るため集めた資料を精選する。(B5袋とじ30ページ程度)</li> <li>・ワープロで清書させる。</li> </ul>
	9 ○ 茨城ヤナセ日立営業所へ取材(2) 取り扱い車種、車両価格、販売区域、売上状況について取材する	
	10 ○ 資料収集と分析 ロータス1.2.3を使って集計整理する	
	11 ○ 資料の整理 まとめに必要な資料を精選する	
12 ○ 報告書の作成		

	月	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
三 学 期	1	○ 報告書の作成 ○ 発表するための資料作り	・発表資料は、表やグラフを活用し見やすくするための工夫をする。 ・VTR, OHP, スライド等を活用する。
	2	○ 研究発表の準備 発表のためのレジメ作成 ○ 研究発表 聞き手が興味・関心が持てるよう工夫する	・制限時間内に要領よく発表できるようレジメを作成させる。 〈評価6〉聞き手が興味・関心が持てるよう発表できたか。

#### (4) 授業の分析と考察

##### ア テーマ設定について

テーマ設定に予想より時間がかかってしまった。その理由は、郷土の地場産業を中心に考え過ぎ、テーマ設定範囲が狭くなってしまったからである。日立市は、工業都市で大企業が多く、「商業に関すること」、「身近なところから」ということには、現実とかけ離れた部分がありテーマを見つけることが困難であったように思われる。

この「ベンツ」をテーマにした生徒は、通学途中、工場の駐車場にある数百台余りの数多い高級車「ベンツ」を見るたび、「どこから来て、どんな流通経路でユーザーに届くのか」また、「1台いくらぐらいするのか、どんな人が乗っているのか」、その他外国車の輸入状況等について興味をもち、テーマとして設定した。

テーマの決め方は、はじめから一つに限定しないで、2～3希望をあげさせ、時間が多少かかってもテーマ相談票をもとに担当教師のアドバイスを受けながら、情報収集からまとめまでのシミュレーションを行い決定したほうがよいであろう。

##### イ 調査の内容及び方法について

はじめに、テーマ設定を確認し、この研究で何を調査するのか、何を発表するのか、そのためには、どんな資料が必要なのか等についてグループで話し合い、研究内容の検討をする。

その結果、次のような手順で調査を進めた。

(ア) 外国車の全体を把握するため、外国車輸入状況等について、県統計課に問い合わせ、資料の提供を依頼した。資料は得られなかったが、大蔵省関東財務局水戸財務事務所を紹介していただいた。

(イ) 大蔵省関東財務局水戸財務事務所へ資料の提供を依頼し、次のような資料が得られた。

- ・ 主要国の自動車生産台数（国別主要メーカー別）
- ・ 車種別新規登録台数（茨城県）
- ・ 主要国のメーカー別乗用車新規登録台数

日本、アメリカ、カナダ、イギリス、ドイツ、フランス、イタリア等主要国の生産台数や輸出入台数等を比較した。また、県内の車種別新規登録台数等を示し、国産車と外国車の実態を把握する資料を作成する。

(ウ) メルセデス・ベンツ日立工場（日立VIC）へ取材を依頼し、次のような調査を行った。

ベンツ工場の世界及び国内のベンツ工場の所在地、生産台数、出荷状況、市場占有率等を調べる。さらに、日立工場の輸入台数、作業内容、国内の出荷範囲等について調べる。



(エ) 茨城ヤナセ日立営業所へ取材を依頼し、外国車の取扱い車種、車両販売価格、販売区域、売上状況等について他のメーカーとの比較をする。

その他、輸出入に関する情報、販売戦略やユーザーの感想などに関する情報等を収集し、資料とする。

以上のような手順で資料を収集し、調査の過程で新たな問題を見つけ検討を重ねた。そして、その問題を解決するために、次の資料を探すというように段階を踏んだ調査を進めた。  
《生徒のレポートより》

今年上半期（1～6月）の輸入販売台数は、34.6%増の185,637台となり、半期ベース過去最高の販売台数である。車種別では、国内需要が37.3%増の36,906台と好調である。このうち日本メーカーの海外生産車は、13.2%増の10,114台で約4台に1台が“逆輸入車”となっている。

メーカー別では、「アコードワゴン」の米国本田が連続トップ。英国のローバーも新型車の好調で、独国のVW・アウディに次いで3位と健闘した。米国トヨタは4位、独国ベンツは5位で、上位を日本と欧州メーカーが占めている。

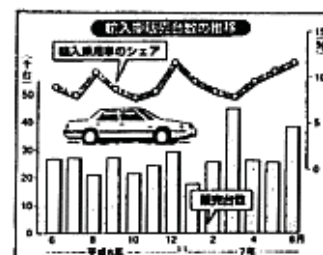


図 輸入車販売台数の推移

#### (5) 授業研究の成果

本研究では、「生徒が主体的・意欲的に取り組む課題研究の在り方」を研究主題として、研究を進めてきた。

テーマ設定については、まとめまでの見通しを立て、発表会で「何を発表するのか」、「何が発表できるのか」など、多少時間がかかっても、生徒の実態を十分把握し助言することが必要である。生徒は、問題を解決するために一つの資料を得ると新たな疑問が生じ、また次の情報を求める。調査の糸口をつかむことにより、お互いに役割を分担し、電話や手紙で問い合わせをするなど意欲的に学習を進めた。

調査の過程で、企業や役所に電話をかけたり、取材に訪問するなど、直接体験できたことは非常に素晴らしいことである。普段おとなの人と話す機会の少ない生徒にとっては、非常に緊張したように思われたが、真剣に対応してくれる企業の方に感激し、責任と意欲を持つようになった。

また、電話のかけ方についても、話す内容を事前に下調べをして、用件を整理するなどの工夫がみられるようになった。

今回の課題研究「調査・実験・研究」の授業においては、実際の・体験的学習を通して、具体的な問題に意欲的に取り組むことができた。問題点を一つ一つ明らかにするために、的確な情報を収集し、調査・分析に基づいて理論的に考えを深め、さらに、新たな発想や創意・工夫を加えることによって自らの力で結論を導き出す力を養うことができたと考えられる。

また、この結果を発表するに当たっては、いろいろな視聴覚教材を利用し、聞き手に興味・関心を持たせながら表現能力を養うことも大切である。

従来のように教師が一方向的に授業を進める形態とは異なり、生徒にとっては新鮮で意欲的に活動できたものと考えられる。さらに、問題解決に取り組む意欲や態度を養う指導の手だてについて研究を深めていく必要がある。

## 【授業研究2】 課題研究における「流通経済分野 秘書経営領域」授業の実践

### (1) 授業研究のねらい

生涯にわたる学習の基礎を培う観点から、自ら学ぶ目標を定め、何をどのように学ぶかという主体的な学習の仕方を身に付けさせるように配慮する必要がある。「課題研究」は経営活動を主体的、合理的に行なう能力や態度を通して自己教育力を高める。更に、地域や産業界の活動とも関連して、生涯にわたる学習の基礎を培い、自ら学ぶ意欲を育て、自力で問題解決を図ることのできる能力を育てるような授業を構成したいと考えた。

そこで、「課題研究」の学習において、生徒一人一人の個性の伸長を図るためには、一斉指導を避け、個人または小グループによる個別指導に重点をおいた学習指導の在り方について研究を進めてきた。

### (2) 主体的に活動できるようにするための手だて

#### ア 事前指導（オリエンテーション）

履修学年の前年度末（3学期）に実施した。実施形態はクラスごとに行ない、同一ホームルームの生徒を対象に実施することにより、説明事項ごとの質疑応答が可能となり、「課題研究」についての理解が深められた。説明事項の主なものは、

- (ア) 「課題研究」では、どのようなことを学習するのか
- (イ) 「課題研究」の学習目標について
- (ウ) 学習の進め方・テキストについて
- (エ) 学習内容、分野と領域について
- (オ) 年間学習計画とテーマ設定について
- (カ) 学習成果のまとめと報告書について
- (キ) 評価の仕方について

2クラスを3分野7領域に興味・関心、進路、趣味等で選択させた結果次のようになった。

(単位:人)

分 野	領 域	1・2組	3・4組	5・6組	計
流 通 経 済	流 通 経 済	—	11	8	19
	秘 書 経 営	8	—	15	23
	デ ザ イ ン	15	9	10	34
簿 記 会 計	簿 記 会 計	12	16	7	35
情 報 処 理	情 報 処 理	7	10	13	30
	ワ ー プ ロ	24	30	19	73
	文 書 表 現	21	10	14	45

#### イ テーマ設定

生徒が主体的に課題を設定し、計画的に課題解決に取り込むためのテーマの設定は、課題研究の指導の中で重要なことであり、専門的な知識・技術の深化を図り、課題解決の能力や自発的・創造的な学習態度の育成をねらいとする科目の目標達成のうえでも、研究テーマの設定過

程は大切であると思われる。

研究テーマの提出は、6月末としているため、それまでの期間を「基礎講座」として秘書全般の学習を中心に行った。基礎講座の一つとして、秘書課に勤務している先輩を講師として招へいして秘書の仕事の内容についての話を伺った。その中で、生徒は障害者に対する接遇等に強い興味・関心を示し、「手話」の技術を習得したという生徒が現れ、専門的に知識を持った社会人講師を招へいし学習を進めることにした。

ここで、テーマを設定するにあたっての留意点を上げてみると

(ア) できるだけ身近なところから発想させる。

既習の商業科目等の知識や技能を基礎としたり、身の回りの事象や素材から具体的に発想する。また、家庭や地域での生活の改善につながるような課題にする。

(イ) 解決の見通しが立つものを選ぶ。

自分の趣味・関心、進路の希望等と深く関わり、創造力やアイデアを自由に働かせて、ある程度解決の見通しの立つものを選択させる。

(ウ) 一つのテーマに絞り込む。

一つのテーマを決定するには、ものの見方や相互関連等をよく検討させ、グループ研究か、個人研究かを決定させる。

(エ) 研究の内容（学習内容）はどれにあてはまるか。

- ・ 調査・実験・研究
- ・ 作品製作
- ・ 産業現場における実習
- ・ 職業資格の取得

[生徒の設定したテーマを上げてみると]

- ・ 秘書検定3級合格を目指して（職業資格の取得，個人研究）
- ・ 秘書検定と秘書について（職業資格の取得，調査・実験・研究，個人研究）
- ・ 職場における人間関係（調査・実験・研究，個人研究）
- ・ 電話の対応について（調査・実験・研究，個人研究）
- ・ 職場における秘書のマナー（調査・実験・研究，グループ研究）
- ・ 手話について（調査・実験・研究，実習，グループ研究）

### (3) 授業の実践

#### ア 年間指導計画

年間指導計画の立案は、次の点に留意しながら、生徒が大まかな見通しのもと計画を立て、その上で教師の助言を得て無理のないような年間を見通した月ごとの計画を立てる。

担当教師として、次の助言・指導を行った。

(ア) 年間の授業時間や学校行事の予定などを知らせる。

(イ) 長期休業中、放課後等の学習活動は、事前に把握し適切な指導を行なう。

(ウ) 時間的、費用的に生徒の負担過重にならないようにする。

(エ) 生徒が明確な目標をもち、意欲的に取り組むよう十分な時間をとる。



イ 展開 (手話について)

テーマ	学 習 活 動	指導上の留意点
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 学習分野・領域の決定</li> <li>○ 基礎講座                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・秘書全般の学習</li> <li>・社会人講師による講話 (卒業生)</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題研究の特色, 学習の方法, 学習内容等十分に検討する。</li> <li>・基礎講座はテーマ設定に役立つように, 幅広く学ぶ。</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話を学ぶ人達のために</li> <li>・手話の特徴について</li> <li>・手話の成立</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人講師による手話の習得 週2時間のうち1時間を配当した</li> <li>・視覚障害者の暮らしやそれを取り巻く社会の現状を研究する。</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手話の実技(1)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>－手話の構成について－</li> </ul> </li> <li>・指示的手話</li> <li>・ものの形をもとに表現した手話</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話技術を覚えるだけでなく, そのことを通して, 視覚障害者との人格的な触れ合いでもあることを認識させる。</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ものの動作身振りをもとに表現した手話</li> <li>・象徴的手話 (事物や事象を抽象化した手話表現)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手話は視覚障害者が日常的に使用しているコミュニケーションの方法で, 言語系列では身振り語に属する。</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 体験的学習 (「障害者とボランティアのつどい」に参加)</li> </ul>	
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 手話の実技(2)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・数・数詞の表現</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身振り, 表情, 手や身体の運動を素材とした聴覚的, 動作的言語活動であることを理解する。</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の表現</li> <li>・疑問の表現</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・接遇のマナー (身だしなみ), 話し方・接遇 (敬語と接遇用語, 面接会話と電話会話, 報告と説明, 依頼の仕方・され方) について研究する。</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人物の表現</li> <li>・あいさつの表現</li> <li>○ 手話の実技(3)                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・手話表現のきまり</li> </ul> </li> </ul>	
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・天気・季節・感情の表現</li> <li>○ 学習成果のまとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習成果のまとめの仕方, 課題研究報告書の記入の仕方などについて, アドバイスをする。</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 課題研究報告書の提出</li> <li>○ 課題研究自己評価表の提出</li> </ul>	

手話の学習を積極的に行ない, 今までの知識や技術を実際の・体験的な学習で確かめたいとの希望で, 結城市社会福祉協議会主催の, 「障害者とボランティアのつどい」のボランティアとして参加した。初めての経験であり, 手話の技術も未熟で, 失敗の連続であったが, 真剣に取り組んでいる姿が印象的であった。参加した生徒は, 「手話によって本当に会話ができるのか不安でしたが, 手話により話ができ, 意思の疎通を図ることができた時の感動は忘れることができません。」と感想を述べていた。ただ障害者に対する接し方が分からず戸惑っていたようであるので, 今後はもう少し生徒にとって体験のできる機会を与える必要があろう。

## ウ 報告書の作成

課題研究実施報告書は、生徒全員が作成する。課題解決のために創意工夫をしたり、努力したりする体験は生徒により異なり、学習成果をまとめる意欲もそれぞれ異なるため、生徒の主体性や創造性を育てる意味からも、生徒一人一人が作成することが大切である。

報告書の主な内容として、次のような共通記載項目が挙げられる。

- a 研究分野・領域    b 研究テーマ    c テーマ設定の理由（研究のねらい）
- d 研究テーマ概要（学習形態・学習方法・研究内容の項目・成果、考察・参考文献）
- e 今後の課題等（反省・感想）    f 指導担当者の助言等

課題研究報告書				平成 7年 12月 3年            K 子	
研究分野	流通経済	領域	秘書経営	研究テーマ	手話について
<p>○ テーマ設定の理由（研究のねらい）</p> <p>基礎講座のなかで、秘書をしている本校の先輩から、職場のマナーについての講話を聞き、障害者に対する接遇として、手話について研究してみようと思った。また、将来福祉関係の専門学校に進学したい希望があるので、このテーマを設定しました。</p> <p>○ テーマ研究の概要</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 学習形態 個人</li><li>・ 学習方法 文献調査、企業訪問調査、実技実習等</li><li>・ 研究内容項目<ol style="list-style-type: none"><li>1. 手話とは    (1) 手話学習にあたって                   (2) 手話の特徴について                   (3) 手話の成立について</li><li>2. 手話の実技について</li><li>3. まとめ</li></ol></li><li>・ 成果（考察）<p>手話を使って会話するということが、大変なことが分かったが、すごく興味を持った。今までに習得した手話で、何か日常生活に生かすことができればよいと思う。</p></li><li>・ 参考文献 初級手話テキスト、中級手話テキスト、新編秘書特講、基本秘書実務等</li></ul> <p>○ 今後の課題等（反省・感想）</p> <p>卒業後は福祉関係の専門学校に進むので、知り得た知識を生かしたいと思います。機会があれば、手話を生かしたボランティア活動してみたいと思っています。</p> <p>○ 担当教師の助言等</p> <p>大変よく研究し習得しました。卒業後も研究の成果を生かして下さい。</p>					

検印

課題研究報告書の提出は1月末日までとし、研究内容をまとめ報告書を添えて提出させる。作成については、できるだけワープロを使用させ、発表などができるように配慮する。

#### (4) 授業の分析と考察

##### ア 事前指導（オリエンテーション）について

課題研究における学習目標、学習の仕方、学習内容、それに研究分野と領域について、生徒は十分に理解し、自分の興味ある研究分野・領域を選択することができた。しかし、若干ではあるが理解できないでいる生徒のいることも踏まえて、第2学年末に実施される事前指導だけに限らず、早くから課題研究を意識させる継続した指導の必要性を感じた。

##### イ テーマ設定と授業の展開について

4月から6月までの間は、基礎講座としてそれぞれの領域ごとに基礎知識の習得に当てた。それにより生徒は興味・関心のあるテーマを設定し、意欲的に活気ある授業が展開された。

「手話」の学習は、専門の社会人講師を招へいたことによって、基礎講座から興味・関心を示し、研究テーマの設定、課題解決のための企業への訪問調査・資料収集・体験学習等を通して、生徒が主体的・意欲的に学習に取り組んでいた。社会人講師を招へいたことによって、生徒にとっても新たな視点で学習ができたように思われる。

##### — [生徒の反省・感想より] —

- ・ 手話を半年以上勉強してみて、すごく興味を持つことができました。まだまだ分からない表現の仕方がたくさんありますが、ある程度の基礎的なことは覚えました。これから手話を使って何か社会のために役に立てれば最高だと思います。 (3年 A子)
- ・ 手話を使って会話するということはとても大変なことだが、皆で手話をしていると楽しかった。頭でいろいろ考えていても、実際やるとなかなかうまくできなかった。手話は目で見る言語で、人間関係の表現などは、話し言葉より正確に表現できることに、驚いた。これからも勉強して日常生活の中で、生かしていきたいと思います。 (3年 B子)
- ・ 秘書について調べ、会社訪問を行ない、ワープロを習ったりしました。秘書検定にも挑戦しましたが、力不足を感じました。しかし、秘書について具体的な役割や会社内外の文書の作り方も分かり満足しています。もし秘書という立場になったときは、この「課題研究」で学習した秘書経営を今後に生かしたいと思います。 (3年 C子)

#### (5) 授業研究の成果

テーマ設定に当たって、生徒の興味・関心を踏まえながら指導・助言をしていく過程で、教師と生徒のコミュニケーションが図られ、教師に対する親しみが増すなど人間関係もよくなった。

学習内容としては、「秘書の資格取得」を選んだ生徒についても、単に資格の取得を目指すだけでなく、企業訪問等を行い調査・資料の収集などを通して問題解決の方法に工夫をして、学習内容の充実を図り、意欲的に学習活動を展開していた。

「手話」をテーマとして学習を進めてきた生徒は、手話技術の習得だけでなく、次々に新たな発想により接遇の研究や体験学習等生徒が主体的に課題解決を図っていた。

テーマによっては、専門的知識が必要になるため、社会人講師等が容易に招へいできるような体制作りと、体験的・実的な学習の機会を設けるなど企業や地域等からの理解と協力を得ることが大切である。また、調査研究を行う場合の費用負担、調査する方法や時間の設定、安全対策、さらに研究成果の報告会及び発表会など今後検討していく必要がある。



## おわりに

### (1) 意識・実態調査にみられた成果

県内の商業高等学校2校について、意識・実態調査を実施した結果、次のことが明らかになった。

ア 商業高校へ入学してくる約7割の生徒は、それぞれ目標をもち、自分の意思で進路を選択している。教師としては、このような生徒に対し、専門的知識・技術を修得させ、経済社会の一員となれる能力と態度の育成に努める必要性を感じる。

イ 「課題研究」は、生徒自らがテーマを設定し、自分の能力や適性に応じて個人又はグループで学習できるので、意欲的に取り組んでいた。また、多様なテーマを設定する生徒の学習に応えるため、指導教師には幅広い知識と指導力が要求される。

ウ 実技・実習を主体とするもので、将来の進路等に直結し、職業資格が取得できるような商業科目に興味をもつ生徒が多く見受けられた。

### (2) 授業研究の成果

身近かなテーマで地域社会に関わりがあり、しかも実体験を通して実施することにより、生徒が主体的・意欲的に問題解決に取り組むための学習指導の在り方について研究を進めてきた結果、次のことが明らかになった。

ア テーマ設定時においては、多少の時間がかかっても生徒の発想を尊重することによって、新たな発想が生まれ、さらに創意・工夫をし、自らの力で結論を導き出す能力が養える。

イ 生徒の興味・関心を引きだし、生き生きとした学習活動を実践するには、テーマ設定時における指導・援助が大切である。

ウ 調査・研究においては、企業や役所等に電話や手紙で問い合わせるなど、主体的に取り組む姿勢が現れた。

### (3) 今後の課題

ア 多様なテーマを設定することが予想される「課題研究」の学習においては、生徒の学習活動に応えるため、商業科以外の教職員に理解と協力を求める必要がある。

イ 生徒の設定したテーマにより専門的知識が必要な場合は、社会人講師等が容易に招へいできるような体制づくりが必要であろう。

ウ 特に調査・研究の場合は、費用の負担、調査のための時間や方法、安全対策等について校内での共通理解を図る必要がある。

### 〈主な参考文献〉

高等学校職業教科指導資料 「課題研究の指導」	平成4年5月	文部省
「課題研究」の理論と実践	平成5年6月	実教出版
学習意欲の見方・導き方	平成2年8月	教育出版